

# 熊本城を考える。 今だからこそ、

熊本城は、肥後熊本のシンボルであるだけでなく、城郭史上でも重要な位置を占めます。その熊本城が、去る4月14日および16日に起こった熊本地震によって、甚大なる被害を受けました。関西にいる我々も、物心両面で支援すべきことは言うまでもありませんが、熊本城の魅力を再確認し、もとの姿に戻った城を再び訪れたいという意識を高めることも、継続的な被災地の復興支援につながるのではないかと考えます。

趣旨説明および熊本城の沿革について

馬部 隆弘（大阪大谷大学講師）

基調講演 熊本城からみた近世城郭（仮）

村田 修三（大阪大学名誉教授）

コメント① 熊本城の石垣の魅力（仮）

堀口 健三（吹田市立博物館）

コメント② 東アジア史からみた熊本城（仮）

中井 均（滋賀県立大学教授）

シンポジウム 今だからこそ、熊本城を考える。

紙上報告 私が考える熊本城の魅力

高田 徹（城郭談話会）ほか

## 平成 28 年 6 月 25 日（土）

◆時間 13:30～16:40（受付開始13:00）

◆会場 大阪大谷大学博物館 2階（11-201教室）

大阪府富田林市錦織北3-11-1（近鉄長野線 滝谷不動駅から西へ徒歩約7分）

◆申込不要（先着170人）

※お車でのご来場はご遠慮ください。

◆参加費は無料ですが、義援金へのご協力をお願いします。なお、当日いただいた義援金は、大阪大谷大学で取りまとめるうえ、日本赤十字社を通じて被災地にお届けします。

◆主催 大阪大谷大学（問い合わせ先：歴史文化学科 TEL 0721-24-1183）